

Greeting from the Mayor

ごあいさつ

ふるさとへの恩返し

寄居町長

峯岸 克明



寄居町は令和7年2月11日に合併70周年を迎えました。今回の記念誌発行に合わせ、これまでの歴史を振り返り、町内外からいただいた多数の寄稿、メッセージを拝見しますと、寄居町が多くの皆様の青春の地、思い出のふるさと、出会いの場、挑戦の地、連綿と続く安らぎの里でもあったことがわかります。町も町民の皆様と共に成長し、多くの人材を輩出してまいりました。寄居町には先人たちの「確かな足跡」があります。

これからの話になりますが、多くの人々を育ててきたこの「寄居町」を今度は私たちの手で日本一の町へ押し上げませんか。何をもちて日本一か。それは私たち町民が自ら幸せになることをもちてです。幸せとは、絶対的基準があるわけではなく、一人一人の心の持ち方で決まるものです。良いことがあったから幸せ、というより、日常の当たり前に感謝できる人、置かれた場所で幸せを見つけられる人、幸せになる勇気を持った人が多数いる町はおそらく日本で唯一無二の町となります。

「誇りある美しい町、寄居」を私たちの手で日本一の町へ！



70年のあゆみ、

確かな足跡。

昭和30年2月11日、当時の寄居町、折原村、用土村、鉢形村、男衾村が合併し、今の寄居町が誕生しました。そして、令和7年2月11日に寄居町は合併70周年を迎えました。

合併でたどる

寄居町の歴史

昭和の大合併

戦後に制定された日本国憲法のもと、地方自治の確立が大きな課題となりました。当時の町村の中には、著しく小規模な自治体が多く、新たな事務や権限を円滑に執行する体制の整備が必要になったことから、国と都道府県の主導で、町村合併が進められました。これが「昭和の大合併」です。寄居地区でも、寄居町・折原村・用土村・鉢形村・男衾村・花園村の1町5カ村による合併案のほか、本畠村・武川村・男衾村の一部による合併案、寄居町・折原村・鉢形村の一部による合併案、花園村・用土村・武川村の一部による合併案など、多くの案が論議されました。

そこでこれらを一挙に解決する手段として、1町5カ村に本畠村・武川村を加えた1町7カ村の大合併の案が打ち出されました。

しかし、その後、花園村が大合併からの離脱を明らかにし、武川・本畠両村も2村での合併を表明するに至り、寄居町・折原村・用土村・鉢形村・男衾村の1町4カ村の合併に踏み切ることとなりました。

当時、町名については「寄居町」か「玉淀町」かという論議もなされたことが伝えられています。

合併の変遷

